



『木造普及』、
『市街地の不燃化』、
『魅力ある地域拠点の整備』
に答える

都市木造普及型プロトタイプ
木あらし準耐火
コミュニティ型共同住宅

西道路側から見る
外壁：多摩産材スギ
軒裏：カラマツ集成材厚板パネル（2階）カラマツ CLT パネル（3階、屋根）

江北小路 足立区江北木密移転先プロジェクト

木密地域からコミュニティを維持しつつ移転を促す、都有地を活用した移転者向けの魅力ある共同住宅を整備する東京都の事業プロポーザルで採択された。1階にはテナントスペース、2,3階には1ルームから3LDKまでの多世代向け16住戸を計画し、そのうち2階の5戸を足立区内の木密地域等からの移転先対象住戸としている。

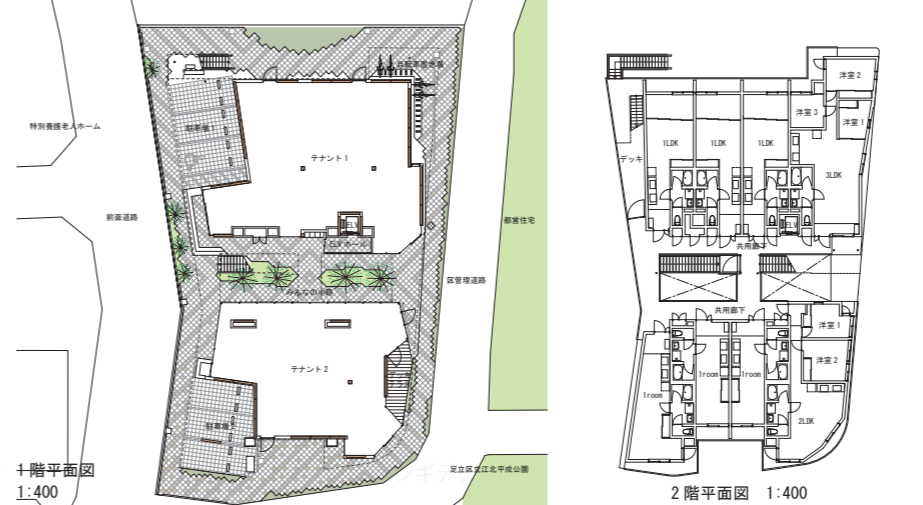
本計画では、『木造普及』、『市街地の不燃化』、『魅力ある地域拠点の整備』という異なる角度からの課題に対して魅力ある答えを導く手段として、木あらしの準耐火木造を選んだ。木材を中心に据えた企画・デザインは、様々なストーリーにつなぐことができ、多様な課題に解を与えることができるからだ。

都市部では1階をテナントとすることも多いため、スパンを飛ばせて壁量が少ない、2020年に三菱地所ホームと開発した、厚板集成材の壁とスラブ・鉄骨逆梁によるFMT構法を採用、上階は在来構法とし、スラブにはCLTを採用した。厚板のラミナはカラマツ、外壁は東京多摩産のスギとした。構法も素材も複数を選定し組み合わせることで、都市的なニーズに応えることができる建築としている。

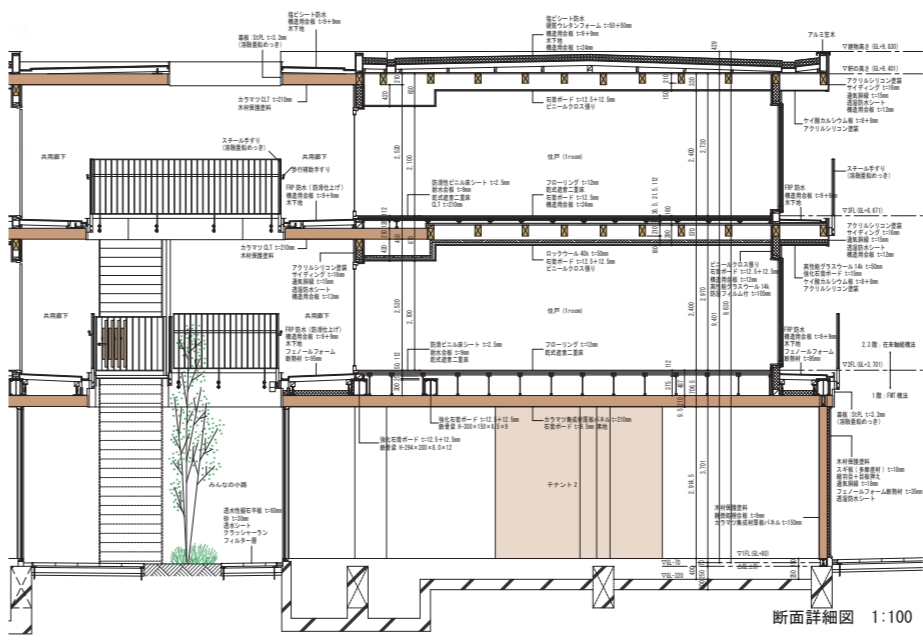
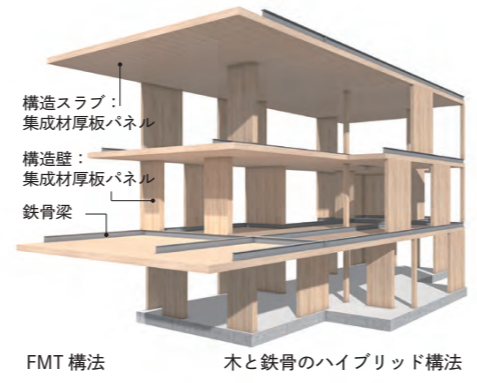
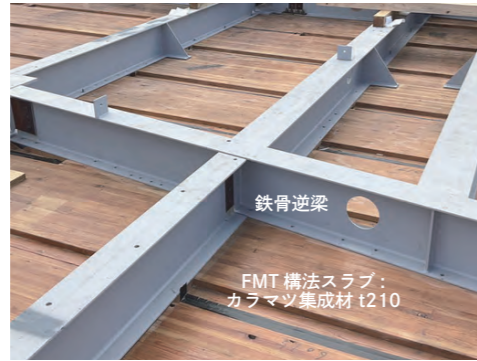
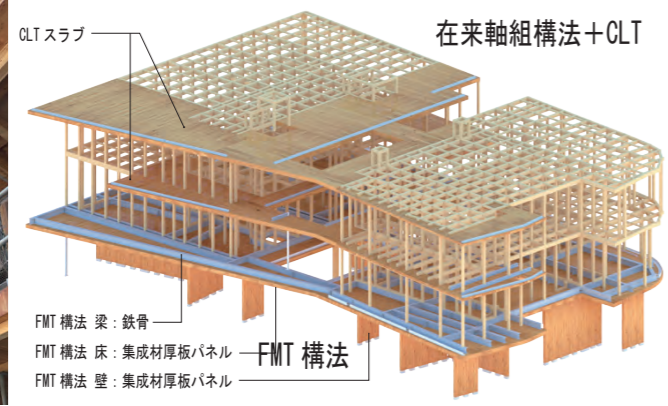
FMT (FLAT MASSTIMBER) 構法

FMT 構法は、2020年に住宅用木造新構法として開発された集成材厚板パネルと鉄骨によるハイブリッド構法。専用金物と集成材厚板パネルで構成された高耐力高靱性の構造壁により必要壁量を少なくでき、集成材厚板パネルと鉄骨梁で構成されたスラブによって、従来の木造工法では難しかった大きな空間やキャンチスラブを計画できる。本計画は、非住宅用に改良されたFMT構法を採用する第1号プロジェクト。

都市型共同住宅としては、上階の共用廊下には回遊性を持たせ、植栽の緑に溢れる中庭を囲む形状にし、立体的交流テラスへと変化させた。交流と互いの見守りを促すリビングアクセス型プランと透明ガラスの玄関扉を、都市型共同住宅でも採用し、コミュニティ性の高い共同住宅としている。



コミュニティ醸成を促す立体的交流テラス



開放感がある、交流と見守り



地域拠点の温かみのある景観づくり